

10/19(日)16:00~ 入場無料 工藤篤子賛美コンサート Vol.5

秋も深まってまいりました。今年も木管楽器のような柔らかく深みのある、また地中海の明るさを思わせる工藤篤子さんの賛美をお楽しみ下さい。



工藤篤子 (地中海ソプラノ)

札幌大谷短大音楽専攻科及び研究科終了後、マドリッド国立声楽院に留学。1987年、スペイン・ヤマハコンクール第一位、ONCEコンクール二位。声質は地中海ソプラノで、オラトリオのソリストとして、またスペイン歌曲のスペシャリストとして、ヨーロッパ各地の国際フェスティバルに招かれる。2000年、「工藤篤子音楽ミニストリーズ」を設立。2011年「工藤篤子ワークショップ・ミニストリーズ」と改名。世界の各地で賛美を通して神の愛と救いを伝えている。ドイツ、ハンブルク市在住。CD「たましいの歌」「Come To Me」「鳥のうた」「神だけが」「讃美」「カンシオン」「ほんとうの願い」、著書「賛美のこころ」を出版。



野田常喜 (ピアノ)

京都出身。幼少より、教会で賛美歌やゴスペルを熱心に歌う両親の影響を受け、7歳の頃からバックでピアノを弾き始める。大阪音楽大学ピアノ科卒業。現在、クラシックやゴスペルの演奏活動を日本各地で行っている。作曲、編曲、アルバム制作にも力を入れている。オーケストラを思わせるピアノと、その場の臨場感に合わせ、共演者と対話するような演奏法は、多くの感動と共感を生んでいる。

インタビューコーナー

今日は、先日洗礼を受けられたI・YさんK・Yさんご夫妻にインタビューしました。

——— どのようなきっかけで教会に来られるようになったのですか。

I・Yさん: まず息子が教会に行くようになって、洗礼を受けたのですけれど、その様子を見てみると、ずいぶん変わったなという印象を受けました。それで教会には人を変わせる何かがあるのだろうと思ったわけです。そして、それは神様のお力によるものだろうから、私たちもぜひ教会に行き教養を請わなければいけないと思ったのです。それで、息子に連れられて教会に来るようになりました。

——— 洗礼を受けるということは、人生の大きな節目になると思うのですが、躊躇はありましたか。

I・Yさん: 私の場合、長年自分の中に染みついた考えから切り替えるというところで、躊躇は確かにありました。90歳を目前にして自分なりの安心立命がほしいと考えていましたが、それまでは自分を高めながら身を処してさえおればよいと考えていました。ところが、教会でお話を聞いているうちに、私たちは神様によって生かされているということがわかり、自分の考えよりもはるかに安心立命だということに気がついたのです。

K・Yさん: 私はあまりむずかしいことはわかりませんでした。息子の後について委ねていけばよいと思っていましたので、牧師先生から洗礼を薦めていただいたときには嬉しくてたまりませんでした。しかも、こうして主人と一緒に洗礼を受けることができたことは、幸せでたまりませんでした。



宝塚栄光教会

牧師: 岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076
E-mail: info@takara-eikou.com http://www.takara-eikou.com

希望のダイヤル 0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。

わたしたちは統一教会、ものみの塔(エホバの証人)、モルモン教ではなく正統的なキリスト教会です。もしお困りの方はご相談ください。

ポッドキャストでも配信中心！ホームページから利用できます。

インフォメーション

チャペルコンサート Vol.35

11/30(日)16:00~ 入場無料

高本一郎(リュート) 小山 恵(ソプラノ)

教会からのオススメの一冊

「少女パレアナ」 (角川文庫)

エレナ・ポーター著・村岡花子訳

両親を亡くし叔母の元に引き取られたパレアナは、「何でも喜ぶ」ゲームが大好きです。喜ぶことを何の中からも見つけるのです。そんな彼女を取り巻く人々の心は正反対です。固く閉ざされた心、氷のように冷え切った心、いびつに歪んでしまった心……。しかし、どんなことにも喜ぶ彼女の姿は、そうした人々の心をやわらかく溶かしていきます。私たちの人生は過酷です。試練があり、挫折があり、大切なものが奪われます。しかし、喜びにはあらゆるマイナスを吹き飛ばす力があるのです。あなたも喜びを見つけませんか。



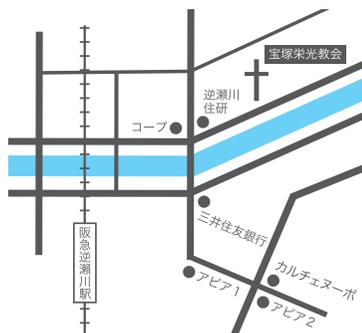
「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。」(聖書)

ケアプラン デイサービス オリーブの実

「ケアプラン オリーブの実」
☎:0797-73-6055

「デイサービス オリーブの実」
☎:0797-73-6077

お気軽にお問い合わせ・ご相談ください。



「価なしに」という恵み

予期しなかったときに、予想もしなかった人からプレゼントをいただいたら、うれしいものですね。でも、そのあとで、なぜプレゼントをくださったのかな、と考え込んでしまいませんか。

しかし、まことの神様は、私たちに、何の理由もないのに、すばらしいプレゼントを下さいました。聖書にこうあります。「ただ、神の恵みにより、キリスト・イエスによる贖いのゆえに、価なしに義と認められるのです。」(ローマ人への手紙3章24節)

神様はどんなプレゼントを下されたのでしょうか。義と認められるというプレゼントです。義と認められるとは、平たく言えば、神様に受け入れられるということです。「価なしに」とありますから、無償で、ただで、何の代償も求められずに、私たちは神様に受け入れていただけるのです。

そんなに神様は気前がいいのでしょうか。いいえ、そこには大きな犠牲が伴っています。「キリスト・イエスによる贖いのゆえに」とは、キリストの十字架を通してということ

です。罪なき神の子キリストは、私たちの罪のために、身代わりとなって十字架にかかってくださいました。私たちが罪と滅びから救い出すためでした。この救いが私たちに、無償で提供されているのです。

「価なしに」とは、何の功績もないのに、価値がないのに、という意味にもなります。私たちの罪は、償うことができないほどあまりにも深いものです。ちょうど、返済不能なほどに借金を背負い込んだようなものです。しかし神様は、そのような私たちに、罪を洗い落としてから私の所に来なさいとか、私にふさわしい清い者になってから来なさい、とは言われません。自分の心をきれいにするための何の功績もないのに、キリストの血の功(いさお)がありますから、そのまま、神様に受け入れていただけるのです。

ただで、功なくして、私たちが神様に受け入れていただける。これがグッド・ニュース、うれしい知らせなのです。あなたも、ぜひこのグッド・ニュースを受け取られ、神様の祝福の中にお入りになりませんか。



「サギソウ」

湿地に自生するサギソウは ランの仲間
日本を代表する 野生ランのひとつ
白鷺が 羽を広げて飛び立つ姿とも
舞い降りるようだとも 表現される
時に サギランとも 呼ばれている

幻想的な雰囲気をも 醸し出し
純白の花で 小さくかわいらしいので
山野草として 好まれて 栽培されている

かつては 日本の各地で多く見られた サギソウも
開発などによって 湿地の消滅 また湿地の乾燥化など
生育環境の破壊 人為的な採集などによって
今では自生のもを 見つけることがなくなったという
各都道府県では 絶滅危惧種とか 絶滅寸前種とか
最重要保護生物などに 指定されている

サギソウの花言葉は 芯の強さ
今でも 田んぼや川原に降り立つ鷺の姿を 目にするが
同じ名前と呼ばれる小さな花を 忘れまいと思う
自生する花が 見えなくなっても サギソウの生えていた湿地
水の絶えない平和な地に 咲いていた白い花を
脳裏に 刻みつけておこうと思う

あなたを呼び求めます
神よ わたしに教えてください
わたしに耳を向け この訴えを聞いてください
慈しみの御業を 示してください
あなたを避けどころとする人を 立ち向かう者から
右の御手をもって 救ってください
瞳のように わたしを守り
あなたの翼の陰に 隠してください。

(聖書)